

野田 幸弘 氏 学位審査結果の要旨

主査：赤根 敦

副査：螺良 愛郎、浅井 昭雄

小児の急死例では剖検実施率が低いため、CTによる死後画像診断（PMCT）の死因同定精度を検討した。38例でPMCTを実施し、7例で剖検も行った。PMCTで全例の死因が判定でき、臨床診断とは16例（42%）、剖検とは4例（57%）で死因が一致した。PMCTは全身骨の検査や空気の貯留の検出に優れ、生後1か月未満では呼吸器系疾患が多く、死因不明の3例で虐待を示唆する頭部外傷を発見した。本研究は小児のPMCTを検討した貴重な臨床研究で、児童虐待発見のためにPMCTを推奨する根拠を示して社会的意義も大きく、学位に値すると判断した。

